

ナチのユダヤ人弾圧のためアインスタイン博士もベルギーへ亡命したという報道は、博士の名を知るほどの人の心をひどく痛ましめたが、今また外電の報ずるところによれば、ナチス系秘密結社が博士の首に賞金をかけて身辺をうかがっているという風説が伝えられている（昭和八年九月九日東京朝日ブリュッセル、日発聯合）。ナチ当局はこの風説を否定しているそうであるが、その責任は嚴重に問われなければならない。

いったい弾圧の手がいち早くア博士に加えられたのは、人種のこともさることながら、博士がドイツにとって ナチにとって 不利な言説を吐いたというにある。その言説とは博士の平和主義を指すものである。ア博士が熱烈な平和主義者であることはすでに著名である。ナチ当局が盾に取った博士の言説というのは具体的にいつどこでどうしゃべったものを指すのか知らないが、次に示す博士の公開状はその思想の一端を示すものである。これは少しも奇矯の言でもなければ不穩の辞でもない。深い洞察を含んではいるがむしろ非凡といたいくらい穩健なものである。ナチ当局のごときほ心を鎮めてこの慧眼な探究者の思想を理解せんことを努力すべきである。

公開状とは国際聯盟知的協力委員会から最近公表されたものである。右委員会は一般的興味ある題目について学者思想家に意見の交換を乞い、これを公刊しているが、その第二輯として教育と平和の問題についてアインスタインとフロイドの間に行われたコレスポнденスが発表されたのである。アインスタインの手紙の全文は次のとおりである。

親愛なるフロイド教授。

国際聯盟および。ハリの知的協力委員会は私に勝手な相手を選んで任意の問題につき忌憚なき意見の交換を求めましたので、今日もつとも差し迫っていると思われる文化問題の一つ、すなわち「人類をして戦争の脅威から解放する路はないか」という問題をあなたの前に提出する機会をもちました。近時科学の進歩と

もにこの問題は文化の生死を意味するに至りましたことは一般の認めるところ
あります。しかしあらゆる熱心なる試みにもかかわらずこれが解決の
企ては不幸にもことごとく挫折いたしました。

のみならず、この問題を職務上または実地上考究すべき職務をもった人々はこ
れをとりあげる能力のないことを痛感するばかりで、世界問題のパスpekチュ
をもちうる科学者の意見を学ぼうとしているように思われます。私は人間の意志
とか感情とかいう暗黒処はわかりません。ですから私ほここに提出した案件につ
きましては問題の出発点を明瞭にし、いつそう明白な解決の基礎を明らかにして
あとはあなたの人間の本能生活に関する御高識にまつよりはかはありません。精
神科学の素人にはぼんやり感じられるだけで把握することのできないある心理的
な障害がありますが、あなたは政治的見通しの埒外でこの障害を取り除く教育方
法をお示しになることができると存じます。

私はナシヨナリスト圏外の一員としてこの問題の表面的（すなわち管理的）方
面を取り扱う一つの簡単な方法を知っています。それは国際的承認をもって、国
民間に起こるあらゆる争いを決着すべき法制機関を設けることです。各国民はこ
の機関によつて発せられる命令に服従し、いかなる抗争においてもその裁断を待
ち、その採決を十分に承認しそつして裁判がその判決の遂行に必要と認めたとこ
ろを一分残さず取り行つのです。しかしこれは直ちに困難に行き当たります。裁
判というものは人間の設ける制度ですからその判決を強制するにはあまりに無力
であつて、裁判外の圧力によつて判決を左右されるおそれがあります。これは考
慮に入れなければならない問題です、法律と権力というものが必然的に平行して
初めて裁判上の判決が理想の正義に接近します。しかし現在においてわれわれほ
絶対の権威をもつた裁判を与えるような超国民的機関を持つことは望まれません。
そこで私は第一の公理に達します。すなわち国際的平和の問題はいずれの国民も
ある程度までその行動の自由すなわち主権を無条件に拘束されるのです。そつし
てこれ以外には平和を得る道のないことは疑いの余地がありません。

過去十年間この目標に向かつて試みられた真筆な努力がことごとく失敗に終わ
りました跡を見ますと、これらの努力を利かなくさせる強力な心理的要素のはた
らいていることは疑いがありません。力の希求、それはいずれの国においても支
配階級の特質ですが、これは主権へのいかなる制限に対しても氷炭相容れないも
のです。この政治的な力の渴望はまったく金銭づくの希望しか持たない一つのグ
ループの活動を助長しがちであります。とくに私は各国における少数ではあるが

決定的なグループのことを意味しています。そのグループは社会的考察や社会的拘束には無頓着で、戦争も生産も武器の販売も個人的な利益を収め個人的な権力を拡大する機会にすぎないとしか考えていない個人々々の集まりです。

しかしこの明々白々な事実を認識することは真に正しい事態を把握する第一歩にすぎません。もう一つ問題がすぐ後に迫っています。この少数の徒党がいかにして大多数の意志を左右しかれらをして自分らの野心の前に服従せしめることができるか。(大多数という言葉のなかには各階級の〇〇「伏せ字 軍人」 編者」をも含めます。かれらはこれらの民族の最高の利益の擁護に奉仕するものと信じ、攻撃は防御の最良の方法と信じて〇〇「伏せ字「軍人」 編者」を職業として選択しているのですが。)この問題に対する明白な解答は、今日の支配階級である少数者は学校出版また大概教会も意のままにしているということとです。これによって少数者を組織にすすめ大衆の感情を支配し、さらに大衆を自己の手足とすることができません。

しかしこの答えはまだ完全な解答ではありません。そこからもう一つの問題が起こってきます。これらのからくりが人をしてその生命をも犠牲にするほどの野蛮な感激にまで湧き立たせ得るのはどうしてであるか。それに対する答えは一つしかありません。それは人は憎悪と破壊の欲望を自己のうちに感じているからです。平常はこの感情が潜在状態にあります。なにか異常な場合にはこれが激発します。しかし、これを誘発して強大な群衆心理にまで醸成するのは割合にやさしい仕事です。ここにわれわれの考えている要因の錯綜したむずかしいところが存在するのでしょう。そうしてこの謎は人間の本能を研究する専門家たるあなたによつてのみ解きうるものと思われまます。

さて最後の問題に移ります。人の心的作用を制御して憎悪と破壊の本能から免れることができるでしょうか。ここでは私は決していわゆる教養のない大衆のみ眼中にしているではありません。経験の証明するところによれば、この危険なる群衆心理に陥りやすいのはむしろいわゆるインテリゲンツィアです。インテリは直接生命をさらけだすことはありません。最も生やさしい合成的な形式すなわち印刷された紙の上で戦争に直面するのですから。

最後に、以上私は国民と国民の間の戦争についてのみ申しました。しかし、喧嘩本能はそれとは異なつた事情のもとにはたらくこともよく承知してあります。(たとえば〇〇「伏せ字「内乱」 編者」です、それは過去においては宗教的熱中

によつて起こりましたが今日では社会的要因によつて起こります、あるいはまだ人種の少数者の迫害です。)しかし、私のいいたいのは人と人との間の最も典型的な最も残忍な無法の争いです。この場合はあらゆる武装した抗争を不可能ならしめる方法を発見する最もいい機会だからです。

この差し迫つた問題についてあなたのお書きになつたものなかには陽にまたは陰にきつと解答が見いだされると存じます。世界平和の問題をあなたの最近のご研究の光で照らしてくださいますならばわれわれにとつてすこぶる有益なことと思ひます。それは新しくて実りある行動の指針となるでありますよう。

千九百三十二年七月三十日ポツダム在カブートにて

アルベルト・アインスタイン

ア博士の言叢は例によつてはなはだ簡潔であるが、心理を愛すると同時に平和を熱愛しているつつましい人間の姿が発露しているではないか。人間のうちにある喧嘩本能を克服したいという希求のごときは最も敬度な最も崇高な人間精神である。これらの言辭はあらゆる人々にとつて傾聴すべき深い示唆を含んだものである。そうして、事物を歪曲することなくその堯実を捉え、そうして科学的に行動することを指し示したものである。

これらの思想のなかにはなんらの有害なものを含んでいるとは考えられない。少なくとも科学的な認識を求めようとする人々にとつてはそうである。もつともナチの連中なんかは科学的に物を考えることができないのかもしれないが、もしそうならそれで偉大なる科学者に敬意を表し、顔でも洗つてせいぜい代数でも勉強すべきではなからうか。人はかのバートランド・ラッセルが大戦中反戦的言辭のゆえにケンブリッジを追われ投獄されたことを想起するかもしれない。しかし、そんなことはなんの例しにもならぬ。

いまやわれわれは中世的蠻行を目前に見ようとしている。ナチの黨員などは朝飯前に何万人でも製造できるかもしれないが、卓抜なる叡智にして崇高なる精神は暁天の星よりも稀である。もしも黒色テロリズムの魔手が博士の身辺に及ぶようなことがあるとすれば、それは単にユダヤ人の安否の問題だけではない。それはまさにわれらの世紀の汚辱である。かかる汚辱をあらしめてはならぬ。

付記 右ア博士の手紙に対するフロイドの返書は戦争心理学として興味のないものではないが他の機会に譲る。

(昭和八年九月十三日)

(本稿は雑誌「鉄塔」、昭和八年十月号(第二卷第十号)に由利保馬のペンネームで発表された。(K))